

ばら通信

2009.6.8発行

〒010-1638 秋田市新屋表町8-5

☎018-828-7750 Fax018-828-8185

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園

NEWS

新年度が始まって…。



裏面もあります

新年度が始まって

平成21年度が始まり、この「ばら通信」を出すつもりがばたばたしているうちにもう6月を迎えてしまいました。時間のあまりの早さに驚くばかりです。ここで、初めて出会う子どもたちやその保護者の方々、このオリブ園で、豊かな様々な経験をしていってほしいと願っています。そのいちばんは、様々な方々との出会いだと私は思っています。子どもたち、職員、そして他の保護者の方々との出会いは何物にも代え難い財産になると思います。

また、継続して新年度を迎えた子どもたちとその保護者の方々へ、子どもの自身の成長を受け止め、それを保護者の方々自身のもので、やりとりしていってほしいと思います。就学を迎える子どもさんたちもいるでしょう。また、幼稚園・保育園への集団保育年齢を迎える子どもさんたちもいると思います。みなそれぞれに、期待と不安を持っていると思いますが、なによりも元気に前向きな気持が大切だと思います。そうは言っても、日常には様々なことがあふれています。落ち込むこともあるでしょう。心配でいっぱいになることもあるに違いありません。そんな時、どうぞ私たち職員に話してください。私たち職員にもまほうの杖はないのですが、一緒に悩み、心配し、一緒に考えていくことは出来ます。私たちはそんな気持でおりますので、いつでも、どこでも、誰にでも相談して下さい。

今年度もよろしくお願い致します。

オリブ園施設長 後藤 進

制度について

現在の日本の通園施設は、肢体不自由児通園施設・知的障害児通園・難聴幼児通園施設・児童デイサービスという4つの通園施設で出来ています。すなわち種別毎になっているわけです。しかし、種別毎だと近くに通園施設があっても種別が違えば通園出来ません。そのため、厚生労働省は地域で出来るようにと、施設種別の一元化を提起し、平成21年3月に閣議決定をし、今国会に上程されています。もし、国会を通りますと、平成24年4月から児童発達支援事業(せんたー)として種別が一元化されることとなります。しかし、現行の種別毎の違い(職員配置、設置基準、単価等)をどうするのか。また、日本の『「障害」認定→支援』という従来の支援の方式では取まらなくなった現状、心配な・気がかりな子どもへの対応が求められているのに、認定→支援という枠を超えられなかったこと。そして、「地域で」といっても専門性を平等に提供出来るのか。という数々の解決しなければならぬ問題が残っています。

幸いに、秋田県では、この課題をある程度解決してきました。これは自治体の力も大きいと思います。オリブ園では、子どもたちの言語・コミュニケーション支援を中心におき、難聴通園ではありますが、様々な子どもたちに対応してきました。まさしく一元化を実現してきたと考えています。さらに気がかりな子どもさんに対しても、医療と自治体との連携で適切な支援の手が伸べられるようになってきました。難聴・言語の専門性をそれぞれの地域でというのはなかなか困難ですが、交通手段の向上や、地域への支援という形で少しずつではありますが、「つなげていく」という形でやってきました。厚生労働省がめざしているように、保育園や幼稚園の場での支援、というも部分的ではありますが試みてきました。今後の制度改正で、現在の支援・サービスが後退しないことを願っています。

制度改変では、その度にご家族の方々にご難儀をおかけしております。国の方には手続きの煩雑さの改善等を要望してまいりました。少しずつ改善の方向に向かっておりますが、まだまだと思っております。どうぞご協力をお願い致します。



これまでと同様、子どもさんとご家族の立場にたった支援を続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.com>